

市民からの意見募集の方法について

○定例月議会の議案に対する意見募集は、毎回どれぐらいの意見があるのか。議会だよりに件数が掲載されているが、これが実際の件数とすれば、明らかに件数が少なく、これでは意見募集を行う意義があるのかと思う。また、市議会モニターである我々は、多少なりとも使命感のようなものがあり、意見を述べている側面があるが、これまでどれぐらい意見が出ていて、一般市民からの意見はあるのか。

- 事務局) 議案に対する意見は、26年度が48件、27年度が63件、28年度が37件、29年度39件の意見をいただいている。統計はないが、一般市民よりも市議会モニターから意見をいただくことが多い。
- 議員) 地域に関係があるテーマだと関心を持つが、そうでないと、なかなか関心を持っていただくのが難しいのが現状である。また、インターネットでも募集をしているものの、インターネットに対応できない高齢者なども見えるので、意見募集の件数がなかなか伸びない。

○インターネットは若い世代は慣れていると思うが、このような意見募集は、若い世代からもっと募った方が良い。

○議会だよりに意見募集の結果が掲載されているが、そもそもこの意見が議案に対する意見と知らない人が多いのではないか。そうであれば、周知方法を見直すなどの課題があると思う。

- 議員) 議案が提出されてから広報広聴委員会に諮ったうえで、意見募集を行うので、時間的制約がある。議案に対する意見募集の取り組みについてのPR不足という点は、課題として承りたい。

○四日市市防災対策条例のパブリックコメントの案内があり、精読したうえで意見を述べようと思っていたが、馴染みのない行政用語もあり、読解するのに時間を要し、回答期限を過ぎてしまったが、もう少し意見募集する期間を再考してはどうか。

- 議員) 募集期間に対するご意見については、今後の検討課題として承る。

○議案に対する意見をホームページに掲載しているが、それを即時に掲載し、意見を受け、さらに違う意見を引き出すように促してはどうか。

- 議員) 広報広聴委員会で掲載する内容を諮るため、意見が出されたのちに、広報広聴委員会に諮らずに即時に公開することは難しい。

市議会を傍聴・視聴して思うこと

○本会議場の議席に空席があるがどうにかならないのか。また、一期生が前列目で期数が上がるごとに後列になるのは何故か。

- 議員) 議場の空席については、かつての議員定数分の議席があるため、現在では使用されていない空席がある。また、一期生が前列目に座るとの慣例でそうになっている。
- 事務局) 上記に加えて、会派ごとにまとまって座るという特徴があり、これらを組み合わせ

て、議場の議席を決めている。

○慣例ということであるが、見直しをしても良いのではないかと思う。

○本会議の質問時間は60分も必要なのか。また、本会議や委員会で度々休憩が取られるが 필요한のか。

→ 議員) 質問時間は議員1人あたり30分配分され、毎回所属する会派内で今回は誰が質問し、時間配分はどうするかということを決めている。また、休憩時間については、本会議であれば、午前中は10分間、午後は15分間休憩を取ることになっている。

○傍聴してみると、何故このような仕組みなのかと疑問に思うことがある。議会では慣例として理解されていても、市民からするとわからないことがあり、その点を改善しないと、今後も市民から同じような質問が出るのではないか。

→ 議員) いかに市民目線で、快適に利用してもらえるかが大切であり、皆さまからいただいた意見は共有していく。

○本会議場の議席表があるのに、委員会では座席表がなく、誰が答弁しているのかがわからない。また、配布される資料に、初めて見た人でもわかるような解説メモや他の自治体ではどうしているのか比較できるような資料が盛り込まれていると理解しやすい。

○6月定例月議会の教育長再任の際に、経歴は以上のとおりです言われても、傍聴者の我々には経歴がわからない。また、理事者という表現も初め聞いた際には、何のことかわからなかった。

→ 議員) 全ての資料を用意することは難しいと思うが、市民が理解しやすいような工夫した取り組みが必要であると思う。

○傍聴して感じたことは、休憩が度々あり、時間の管理に無駄があるのではないかということである。また、お昼休みに議場の照明が点灯したままであるが、消灯してもいいのではないか。

→ 議員) 委員会で資料請求が行われると、理事者側に資料の準備をさせるために、一旦休憩を取ることもあり、その点をご理解を賜りたい。また、議場の照明については、注意すべきところは注意していきたい。

○一般質問で理事者が検討すると答弁した場合、その後の検証は行っているのか。

→ 議員) しばらくしてから、過去に質問をしたことについて、その後の対応状況を質することができる。

○議会中継の録画版は、インターネットで視聴できるのはいつからか。

→ 事務局) 概ね1週間程度してから視聴できるが、DVDの貸し出しも行っており、こちらは2日後から貸し出しが可能であるため、事務局へお問い合わせいただきたい。

○中高生向けの見学会はないのか。議会の様子を中高生に見せる意義は大きいと思う。

→ 議員) お越しいただくとすると、夏休みになると思うが、その時期は、議会が休会中であり、傍聴していただくことができない。

議会報告会のあり方について

○同じ日に2つの委員会が同時に議会報告会を開催すると、それぞれ参加しようにもどちらか片方しか参加できない。

→ 議員) これまでも市内のショッピングセンターでの開催など、参加者数の減少という課題を踏まえた取り組みを行っている。ご意見として承る。

○議会報告会の中身について、もう少し議員個々の得意分野を生かした内容にしてはどうか。

→ 議員) 議会に興味を持っていただけるように、シティ・ミーティングのテーマを選んでおり、必ずしも議員個々の得意分野を生かした内容ではないことに理解を賜りたい。

市議会だよりについて

○正直な話、市議会モニターになったのがきっかけで、市議会だよりを初めて見た。

○市民にとって必要な情報なのかどうかは別だが、必要なことはしっかりと書かれている。

○一昔前に比べるとカラー印刷にもなり、見やすくなったともう。そもそも、市議会だよりの全項目に目を通す人はいないと思う。

○今のままで十分だと思う。もっと記事を多くしてほしい、もっと少なくしてほしいというさまざまな意見があると思うが、自分が興味のあるところに目を通すだけでもいいと思う。

○このままでいいと思う。敢えて言うと、もう少し市民に訴えていくところを前面に出した方が良い。

○少しずつ内容が変化してきており、これでいいと思う。

○これはこれでいいが、中学生ぐらいの子が読めるものを1年間に1回ぐらい発行されると、私たちでも読みやすいので、あってもいいのではないか。

○これはこれでいいと思うが、どういう市にしたいのかという視点で見ると、中身が見えてこない。

市民からの意見募集について

○議案に対する意見募集はテーマが大きすぎるような気がする。もう少し具体的なテーマの方がよいのではないかと思う。今回のブロック塀の補助に関する議案に関しては、自分にも関係するテーマだったので関心があった。アセットマネジメントについては、センターの館長にも内容を聞いて理解をし、議会の最終日に傍聴もした。アセットマネジメント基金条例制定について、多くの議員は賛成していたが、反対している議員の方がむしろ真剣に考えているのだなと私は思った。

→ 議員）私は、反対した議員のうちの一人名であるが、委員会ではいったん賛成したが、銀行に預けても増えないという現状があり、基金に縛られなくてもよいのではという考えがおきてきたので、最終的に反対した。色々な意見があつていいのではないかという問題提起という意味も含めての反対だということに理解いただきたい。

○議案に対する意見募集はどのような方法で行っているのか。また、件数はどれくらいか。

→ 事務局）定例月議会を開催する際、執行部から議案がだされるので、その中から各委員会一つ程度議案を選び、資料とともにホームページへ掲載している。意見の件数は多い時で20件くらいの時もあるが、おおむね数件となっている。

→ 議員）6月定例月議会での認定こども園整備事業や8月定例月議会でのブロック塀の除去の補助制度などは多くの意見をもらった。市民の関心に沿うようなテーマを選ぶなどの工夫が必要であると思っている。

市議会だよりについて

○市議会だよりおよび市議会のホームページがあまり認知されていないように思う。私も社協で広報を担当していて、最近、若い方からはみなさんスマホに慣れているので、QRコードを載せてはどうかという提案があつた。できれば市議会だよりもQRコードを載せて市議会のホームページにつながるようにしてはどうか。掲載がないというのは、若い人を対象としていない感じがある。特に高校生を対象とした行事などをするのであれば必要であると思う。

→ 事務局）昨年の広報広聴委員会の中で、市議会だよりについて検討をしており、QRコードの掲載についても意見があり、一般質問の欄へQRコードを載せて、ホームページのインターネット録画配信とつなげてはというような意見もでた。市議会だよりについては、今年度、どの部分からどのように変えていけばよいのかを引き続き検討中である。

○市議会だよりの発行部数を教えてほしい。また、年間の予算はどれくらいか。

→ 事務局）全戸配付しているので、約14万部発行し、費用は年間で約900万円である。

○大半の方は、市議会だよりを見ていないと思う。他の方法がもっとあるのではないか。各戸配付にすると14万部になるので、例えば町内回覧にすると部数がかかり減り、予算もカットできるのではないか。

○私は、議会だよりをよく見る。CTYやインターネットでも見られるが、書いてあるものを読むと、もう一度思い返すことができ記憶に残る。私達の年代はインターネットが苦手な方もいる。市議会

だよりは、発行時期を早めてもらいたいくらいである。

→ 議員) 8月定例月議会号とはいっても、最終日が10月5日で、発行が11月5日である。約1カ月で発行しているので、これくらいはかかると思う。

○CTYで見なくても、議会だよりを読めば議員さんの活動が良く分かる。ぜひ続けてほしい。

○廃止するというのではなくて、町内回覧にした場合、部数が減るので、一つの方法として少しでも経費削減になればということ提案した。廃止するというのではない。

○傍聴者の方が、職員に議会の日程について尋ねていた際、市議会のホームページを案内していたが、そもそもインターネットを見ていないから、聞いている方に対して、その説明はあまりよろしくないのではないかと思った。自分の親もパソコンが使えないので、パソコンを使えない人にとっては、紙の市議会だよりも重要だと思った。今は、さまざまな情報媒体があるので、どの媒体を使っていくのか選択するのがすごく難しいとは思いますが、紙もなくしてはいけないと思った。

○高齢でもすべてに関心を持っている方もいるし、私の周りには新聞すらも読むのが大変だと言う方もいる。読む人がいる限りは、大事なことなので廃止するということは不可能だと思うが、今、若い方の中には、広報よっかいちさえも読まずにすぐごみとして処理する人もいう時代になってきている。効率の良い広報の仕方、回覧の仕方ということをこれからはもっともっと考えていかないといけないと思う。

傍聴・視聴して思うこと

○議会を傍聴した時、各議員の質問に対して、執行部から完璧な答えが用意されていた。あまりにも完成されており、シティ・ミーティングで出される意見、市議会モニターの見解、市政モニターの見解などが、はたして必要あるのかなと感じた。他の方はどのように感じているのか聞きたい。

○私は、本会議よりも委員会をよく傍聴している。委員会では、深く追求するような質問も出ており、通り一遍の答えではないように感じる。私は、一番参考になると思っている。常任委員会も傍聴できるので、委員会を傍聴してみてもどうか。かなり印象が変わると思う。

→ 議員) 4つの常任委員会があり、インターネット中継もしているので、ぜひ傍聴や視聴してもらって、議会モニターとして意見がもらえればと思う。委員会の議題については、事務局に問い合わせてもらえば分かるし、予算決算の常任委員会もあるので、傍聴してほしい。

○CTYは番組表が配付されていないので、いつ放映されるのか分からず、今まで1度も見たことがない。

→ 事務局) モニターの方には、各定例月議会ごとに日程表と一般質問の通告一覧表を送付している。CTYでの放映やインターネット中継についても記載しているので、そちらで確認してほしい。

→ 議員) 一般質問をすべて見ることは難しいと思うが、この議員がこの内容で質問するのであれば、一度見てみようということもあるかと思うので、そのあたりにも注目してもらってもいいのではないかと思う。

○昨年度と今年度に傍聴に来たが、議員さんの態度が中学校の学級会レベルだと思ったところがあった。全体として和んだ雰囲気の中で笑い声があつのは良いと思うが、中には冷笑だなと感じる時があり、嫌な雰囲気が漂っているのを感じてしまった。それは、CTYで見ている分には、分からないことだと思った。また、傍聴席にモニターではない常連の傍聴者がおり、学生の傍聴者

へ色々なことを話しかけていて、嫌な感じがしたので、そういったことはあまりやってほしくないと考えた。それをどのような意見として書いたらよいか分からなかったが、今日、この場で話せてよかった。

○傍聴に行った時に、常連さんのような傍聴者がおり、3人組、2人組で傍聴席をウロウロしていた。男性で体の大きな方が、休憩時間に場所を移動したりしていたのでそこにいるのが怖かった。

→ 議員) 人に危害を加えたりする方たちではないので、個人でモニタリングされている方ということで理解していただきたい。

○楠地区で行われた市長のタウンミーティングにも常連の傍聴者が来ていて、積極的に意見を言っていた。地区外の人に、熱心な人がいるなと思ったが、地区の方が意見を言っても無視されており、不安に思うところもあった。地区外の人に対して何か対処はできないか。

→ 議員) 市長がタウンミーティングで各地区を回っているが、地区外の人には来てはいけないとは言えない。

○言えないのは分かるが、地区のことを分かって発言しているわけでもないのに、なぜそのような意見を言ったりするのか少し疑問に思うところがあった。

→ 議員) そのように感じる人もいるということは理解できる。

○市議会モニターとしての意見がなかなか出せないのに、ある議員に相談したところ、例えば本会議場の議席の並び方や議員の声の大きさなどに対する意見を議会モニターとして出してもらってもいいのではないかと、言ってもらった。それで、傍聴している時、若い議員の質問は端的で重複が少ないと感じたが、ベテランの議員の中には、同じような質問を何度もされている場面があったので、議員もある程度の年齢で定年にした方がよいのではないかと聞いたことがある。そういった意見でもいいのではと、言ってもらった。自分自身、迷いながらモニターをやっている。

→ 議員) 市議会モニターにはあくまでも、傍聴して感じたことや、議会報告会のやり方、意見募集制度のしくみ、また、議会だよりなどに関わることで、もっとうまくいった方がよいというような意見を寄せて頂ければ、広報広聴委員会で議論したり議会運営上の変更を検討したりすることができるので、少しそういった分野に特定したモニターだと受け止めてもらえるとうれしい。

○市議会モニターの中で、意見を提出される方は何割くらいいるのか知りたい。

→ 事務局) 出される方は年間に何件も出されるが、出される人よりも出されない人の方が多い状況である。

○モニターの選考方法はどのようになっているのか。性別や年齢など基準はあるのか。

→ 事務局) 地区の人口によって1名又は2名を地区市民センター館長へ依頼し、推薦してもらっている。2名推薦してもらう場合は、男性1名女性1名となるように選んでもらっているが、年齢についての特に基準はない。

○選挙の投票率が低いことを議員さんはどう考えているのか。議会や委員会で話し合われているのか。

→ 議員) 地区ごとに理由は色々あり、高齢化しすぎていて、投票所まで自分で行けない方もいる。しかし、全体的に若い方の関心が低い。労働世代の現役の方の投票率が確かに低いけど、最近では期日前投票で少しあがってきているけど、選挙権が18歳まで引き下げられ、10代には興味のある人もいて、良い傾向にあるとは感じるけど、まだまだ投票率を上げる事にはつ

ながっていない。若い世代からは、ネット投票はどうかとの意見もあり、電子投票についても機器は日進月歩なので、今後早い時期にテレビなどで投票できるようになればいいのだが、そういったことも考えていくべきだと思っている。日本国民全体の政治離れがあるということも付け加えておきたい。

→ 議員) 理由の一つは、候補者や議員自身の存在が問われているということだと思う。もう一つは市民のひとりひとりが主権者としての投票権の行使という認識が、まだまだ日本の中で醸成されていない、むしろ低下していることを憂いている。議員だけが投票率を上げる力になるかといえばそうではないと思うので、有権者自身が主権者として、1票を投じる重みを考えることが必要である。議員側からの啓発はもちろん、若い人への主権者教育をどう進めていくのか、長いスパンがかかると思うので、そのあたりに注目してもらったり、市議会モニターさん自身が、このような活動を通じて市民に広めてもらうことは、大いなる糧になるのではないかと考えている。

議会報告会のあり方について

議員) 市議会だよりの19ページに次回の議会報告会の予定が掲載されている。参加したことのない方も、市民として意見を言うことも可能であるし、またモニターの目線で報告会のあり方について、意見をモニター通信用紙に書いて提出してもらえれば今後の議会報告会を改善、工夫していく一助になる。知り合いや友達を誘ってもらうのもいいのかなと思うので、お願いしたい。

○自分の地区で開催される時は、自治会から呼ばれるので、毎回参加している。積極的に活動されている姿勢が分かる。

市民からの意見募集について

○どのような意見を募集しているのか。

→ 議員) 議会運営に関するご意見、定例月議会ごとに執行部から提出された議案に関するご意見を募集するほか、常任委員会の所管事務調査事項の募集、また、シティ・ミーティングのテーマの募集などを行っている。どのような意見か限定せず考えてみてほしい。

○幅広い年齢層から意見をいただきたいと考えているのか。

→ 議員) 世代はもちろんのこと、賛否や争点、懸念されることなど、幅広いご意見をいただくことで、広い視野を持って議論していきたいと考えている。

○ホームページの議案に対する意見募集のページを見ても、どのように意見を伝えたらいいのかわかりにくい。該当ページに直接意見を書き込めるように工夫してはどうか。また、幅広い世代から意見をもらうためには、世代によって周知方法を工夫する必要があると思う。特に、高齢者向けには広報を活用したアピールなどが効果的と考える。

○市議会モニターになる前は個人的に議員に直接相談するなどしていたが、行動を起こしてしてもらえずがっかりした。市議会モニターとして地域住民の意見を吸い上げ、議会に伝えるべきなのかと考えているが、どのようにすべきか、また、どうフィードバックすべきか。

→ 議員) 議員に直接伝えることも市民意見を市政に反映させる重要な方法であり、議員にとっても市民意見を踏まえて発言することは大切なことである。一方、議案に対する意見募集等の制度は、議員を通さずに意見を伝えることができるツールである。また、当制度は市民全体を対象としており、市議会モニターというよりは、個人からご意見をいただくことを想定している。

○ホームページの構造がわかりにくく、目的のページになかなかたどり着かない。また、CTYで議会中継を見る際もサブチャンネルで視聴する必要があり、わかりにくい。インターネットで視聴するときも全画面にする方法がわからず、小さい画面で視聴した。

→ 議員) 本会議の中継の画面は確かに小さい。Youtubeで委員会中継を行っており、そちらは比較的大きな画面で視聴できると思う。

○インターネットを使えない市民から意見をいただく為にも、市内に住む不特定の方を抽出して郵送により意見をいただくといった工夫が必要であると考え。

○議案は全体でどの程度あるのか。

→ 議員) 定例月議会によって様々だが、一般的に決算、予算の審査をする8月や2月は多く、数十議案上程される。

○土木要望のように自治会が取りまとめる仕組みにすれば、高齢者からも意見をもらえるのではないかと。また、若年層向けには大学等の教育機関を通じて意見を募集してもらってはどうか。

→ 議員) 18歳から選挙に行くことができるようになり、教育機関との連携はますます重要になると考えている。昨年度の120周年記念シティ・ミーティングをはじめ、今年度も高校生議会の開催を予定しており、高校生と意見交換をする取り組みを進めているところである。

○反応がないとやる気がそがれてしまうため、何らかの返答をすべきではないか。

→ 議員) すべてに返答するのは難しい上に、議案に対する意見募集制度ではいただいた意見を議論の参考にするという性質上、返答しにくいという事情がある。返答できるかどうかも含めて検討する。他方、パブリックコメントについてはできる限り返答するように心がけている。

○市民の意見に対しては、誠実に受け止め、対処内容などを返答することも議員の仕事である。

○募集するのみでフィードバックがないというのは制度として不十分ではないか。しっかりと返答すべきである。

→ 議員) 市民からいただいた意見を議論の参考とし、議論の結果を議会報告会で報告するようにしているが、確かにご意見をいただいた本人に伝わりにくくなっている。

→ 議員) どのように回答するかが重要であり、課題であると認識している。多くの世代からの意見募集や意見交換のツールとして、インターネットなどの新しいシステムも取り入れているところであり、今後も模索していく。

○いただいた意見にすべて返答するのは難しいのではないか。興味のあることは議会報告会等の場に足を運び、直接聞くべきであると考えます。

市議会を傍聴・視聴して思うこと

○傍聴者の中には特定の議員の質問が終わると帰ってしまう方がいるが、せっかくならそのあとも傍聴していくべきと思っている。また、野次を飛ばす人物に対し、議員や事務局が止める様子もないがどうなっているのか。

→ 議員) 特定の議員を見に来た方だと思われる。ぜひ傍聴して行ってほしいと思うが、強制はできない。

→ 議員) 国会中継でも目にするが、議員間の野次はしばしばある。

→ 議員) 議事進行に影響があれば対処する必要がある。今後ひどいようであれば対策を考えたい。

○最近、小池東京都知事をはじめ、カタカナ言葉の使用が多く、よく分からなくて困っているが、四日市市議会の中ではあまり使われず、ありがたく思っている。

○一般質問において、議論の内容がかみ合わないことがあるが、議員と担当部局ですり合わせを行い、より深い議論を活発に行えるようにすべきである。

○以前同じような質問を繰り返す議員がいてあきれた。また、寝ていると思われる議員もおり、真剣に職務に当たるべきである。

→ 議員) すりあわせをしすぎると事前にやり取りが出来上がってしまい、シナリオのようになってしまうというジレンマに悩んでいる。より深い議論ができるよう、議員も担当部局も勉強することが重要であると考えている。

○議論が当初の通告内容からそれて発展してしまうことがあるが、通告内容の議論を深めてほしい。

○市議会モニターとして傍聴した場合、守秘義務等は発生するのか。

→ 議員) 個人情報等の関係で公開できない場合は秘密会を開くことになる。市議会モニターとして守秘義務が課せられることはない。

議会報告会のあり方について

○議会報告会は平日の夜間のみで開催であるため、主婦は参加しにくい。休日や昼間の時間の開催を

増やしてはどうか。また、近い地区での開催がない。

→ 議員) 開催場所については市内を4つのブロックに分け、均等に回っている。また、1年に1回程度、休日の昼間に開催している。なお、去年はショッピングセンターの一角で開催した事例がある。

○議会報告会で質問をしたが、返事が返ってきたのは1か月以上も経った後で、内容も納得できるものではなかった。

→ 議員) 回答が遅くなったのは、委員会として質問内容を共有し、内容をよく精査した上で回答を作成したからである。ご理解をお願いしたい。

○先日参加した議会報告会にて、基本的なことを質問したにも関わらず、それに対して議員が答えられない様子を見てがっかりした。市のイベントに参加するなどし、もっと勉強すべきである。

→ 議員) 現在は常任委員会を1年で交代することとなっているが、より、専門的に理解を深めるために任期を2年にする議論をしているところである。

○一度に4つの委員会の報告が聞けるように、1会場でまとめて開催してはどうか。

→ 議員) 同様の考えを持った議員もおり、また、シティ・ミーティングにおいてテーマを絞ってしまうことが議論の妨げになると考える議員もいる。

→ 議員) 昨年度開催した120周年記念シティ・ミーティングでは1会場で開催した。

→ 議員) どのような開催方法であれば参加したいと思えるか。

○実施が困難であるということはあるが、できれば、近くの市民センターで4常任委員会分開催してほしい。

○市長が参加すると集客につながるのではないか。

→ 議員) 市長はタウンミーティングという別の取り組みを行っている。また、市長が参加すると議会報告会の意味合いが変わってしまう。

○大矢知興譲小学校の改築や新図書館の話題に非常に興味がある。シティ・ミーティングのテーマをそういった市民の興味があることにしてはどうか。

市議会だよりについて

○他市では、市の広報紙と議会だよりが合体していることがある。

○市の広報紙は読むが、市議会だよりはあまり読もうとは思わない。より多くの人に読んでほしいと考えるなら、市の広報紙の中に議会広報を掲載してはどうか。

○市の広報紙と議会だよりは別になっている方が良いと考える。

→ 議員) これまで議会だよりの重要性は取りざたされていなかったが、今では議員の中でもその有用性に注目する意見が出ている。配布しても市民に見てもらえないのでは意味がないので、まずは手に取ってもらえるように表紙を変えようとしているところである。

○子どもでも分かるよう、イラストの使用や字の大きさを工夫するなど、市の広報紙の良いところをとりいれるべきである。

○記事ごとにイラストが入っているとわかりやすい。さらに、子どもの興味を引くこともできるのではないか。

○一般質問のレイアウトは興味を引く見出しがあり、読もうという気持ちになるが、委員会審査などは字ばかりで読む気がそがれる。「～について」という部分の色を変えたりするなど工夫するだけ

でも読みやすくなると思う。

- 委員会審査も一般質問のようなレイアウトにしてはどうか。また、行間や段落で空間を確保することで読みやすくなると思う。
- 議会だよりを議員の広報媒体として都合の良いように使っているのではないか。一般質問のページなどは議員が得意な分野で質問をして、その成果を宣伝しているように捉えてしまう。読んでもらう工夫としてはページ数の削減等が効果的であると考えます。
- 自分の応援している議員の活動を知りたいので、簡単な見出しで表紙に議員ごとの活動が書いてあると、読む気になる。
- タブロイド判にして、大きく写真などを掲載する等すれば、興味を引くことも可能と考える。
- 女性の読者の増加を目的として、女性目線を取り入れるために編集作業は女性がメインで行ってはどうか。また、幅広い世代に読んでもらえるよう、簡単な言葉遣いを意識すべきである。
- 議会だよりに広告を入れると雰囲気が変わるのではないか。